

エクステリア・ガーデン・造園業に特化した、メーカー・商社・施工店経営者・職人のための業界専門誌

平成2年6月15日第三種郵便物承認
令和4年11月25日発行
年12回毎月25日発行
通巻403号

EXTERIOR WORK

<https://exwork.jp/>

旬 エクステリア☆ワーク

2022

Monthly
magazine

12

403号



に完成 一(株)今井庭苑が設計・施工

I land Villa resort 『ANNEX』という名の楽園

駒ヶ根の自然の中で出会った 癒しの空間
晴海運河やビル群に囲まれた 洗練された空間
ANNEX というフィルターは 新しい魅力を引き出す

見慣れたはずの自宅に ANNEX という魔法をかけてみる
滝の水音は 心を整える自然の歌声
暖炉の炎は 癒しを与える揺らめきのリズム
愛車たちは 恋心さえ芽生える美しいフォルム
空の切り取り すぐ傍にあった自然の存在
すべてのピースがひとつに集い 日常に非日常が生まれる

ANNEX TIME は 時を刻まない
ふと気付くと 素直なままの 自分と出会っていた

2022.10.25 Takumi Inoue



『GARDEN ANNEX』オーナーの井上拓民氏



(株) LIXIL 『GARDEN ANNEX』が前橋の邸宅



設計・施工をおこなった(株)今井庭苑・佐々木英志氏(右)とANNEXで語り合う井上氏。ANNEX購入の決め手は、「自宅という日常世界を革新的なイノベーションを取り込んで、非日常に変えたいとおもったこと。そしてもう一つ言えは、佐々木社長の笑顔が見たかったから！」(笑)。井上氏が佐々木氏に寄せる信頼は絶大なもの。この関係について井上氏は「遠くルネサンス時代に遡れば、佐々木さんはミケランジェロ、私はそれを支えるメデイチ家(パトリック)」といった関係」と話す

2022年10月25日、(株)LIXILの『GARDEN ANNEX』が群馬県前橋市内の邸宅に完成。オーナーは県内で6店舗の調剤薬局を経営する(株)折り鶴の社長・井上拓民氏。井上氏は、一昨年薬局店舗の「らしくるカフェ」のガーデンリフォームを依頼した高崎市のエクステリア専門店・(株)今井庭苑の佐々木英志社長に、今回も設計・施工を全面依頼。両者の強固な信頼関係の下、日本国内の代表作となるべく一般住宅でのANNEXがこのほど完成したのである。オーナーである井上氏のANNEXとの出会いは、LIXIL駒ヶ根であった。それ以来、ANNEXに対する熱い想いは、日頃の多忙な時間から解き放たれた自分に気付く散文詩として記録されている。

今回の記事は、そんなオーナーの想いを余すところなく紹介するANNEX賛歌とも呼べる記録である。

ANNEX空間に包まれる喜びと至福の時間

居住オーナー・井上拓民氏、その想いを語る！

GARDEN ANNEXとの出会い
2021年の8月に、憧れのアストンマーチンを購入した際に、ビルトインガレージにリフォームしようと考えていました。

百聞は一見にしかず、早速、東京江東区(株)LIXIL本社を見学。そして実機を体感できるのとことで、同社の駒ヶ根へと佐々木社長に誘われて、ANNEXと出会いました。

以前からお世話になっていた(株)今井庭苑の佐々木英志社長にも、セカンドオペニオンとして、何か良い提案はないか相談を持ち掛けていたところ、ある日息を弾ませながら自宅にやってきたのです。「社長、LIXILで、とんでもないもの見つけてきました！」

GARDEN ANNEXに魅了されて

子供のようキラキラした目で、一方的に話を続ける佐々木さん・・・(笑)。

駒ヶ根という自然の中で出会ったANNEXの世界観は、一撃で私を魅了しました。もう、その瞬間に、自宅への設置を決めたほどです。最初の印象は、まず全面ガラス張り、かつ柱が細いスタイリッシュなデザインです。そして、屋根が開くという非常識な感覚。これが強烈



玄関前から見た ANNEX

手前のスクリーンパネルに光の“ゆらぎ、演出は佐々木さんの仕掛け。佐々木さんは今回のリフォームについて、次のようにそのコンセプトを語ってくれた。

「素敵な住宅の外構リフォームだったので、建物とのバランスを考慮したおさまりの難しさがありました。リフォーム前は道路際まですべて壁で囲われていましたが、それを全部撤去して ANNEX を設置しました。

ANNEX をベースに門扉の角度、動線なども含めどこに何を置こうかとトータルに考えいろいろなパーツを採り入れてデザインしました。

その中で特にこだわったところは、玄関前の滝です。水の落ち方・流れ方を工夫し、滝の2段目、3段目での水の動きに変化をつけました。スクリーンパネルに照明が照らされると、光の“ゆらぎ、が発生し、どこから見ても絵になります。



ANNEX が部屋の中から一望できるように、リビングの壁をリフォームして窓を新設したこともポイントです（左写真）。これによって、滝の流れと ANNEX、そして愛車を部屋の中から眺めながら、ゆっくりと過ごす時間が生まれたのです」

さえもコントロールしてしまう調和能力があります。そして ANNEX は、その圧倒的な存在感を有しているにも関わらず、その存在自身は決して目立ち過ぎない奥ゆかしさも兼ね備えています。ANNEX それ自身が目立ち過ぎないのは、その無駄のないスタイリッシュ

なデザインに秘訣があるのかもしれない。例えばアカデミー賞に例えると、その主役の魅力を引き出す「助演女優」にさわしい！僕が審査員であれば、迷わず「助演女優賞」に推薦するでしょう。ANNEX は、自然や都会の景観の秘めた美しさを輝かせてくれます。見慣れた自宅さえ、ANNEX をまとうことで自然やヒトと繋がる新しい空間へとトランスフォーメーションします。そこに広がった世界は、ヒトの五感を研ぎ澄まし、生きていることを実感させ

母屋カウンター BAR から望む ANNEX

母屋のカウンター BAR から、グラスを傾けながら ANNEX で人々が集う光景を眺めるのも一興。外から見る時、改めて ANNEX の包容力に気付かされる

僕が今までイメージしていた、張り出し感がうざくて、家のおまけみたいな、いわゆる“サンルーム”とは全く異なるものでした。この世界観は、一つのイノベーションであ

りました。僕が今までイメージしていた、張り出し感がうざくて、家のおまけみたいな、いわゆる“サンルーム”とは全く異なるものでした。この世界観は、一つのイノベーションであり、光や風、雨で



り、例えるなら、iPhone の誕生のような鮮烈なものではないでしょうか。まったく新しい価値の創造をしているのが ANNEX だという印象です。

ANNEX は「主役」を引き立てる「助演女優」のような存在

井上拓民氏が考える、『GARDEN ANNEX』の活用方法 - 5つの Worth (価値)

1) 職員との会議・コミュニケーション

突き抜ける青空の下で行うディスカッション。優しい風や自然の光に包まれながら、斬新な意見が飛び交う。居室内は生活を感じて入りづらいが、ANNEX は非日常空間。自らの料理を振舞ってもいいし、キッチンカーを呼んでパーティーと洒落こんでもいい。“飲みコミュニケーション”でチームビルディング！

2) 友人との語りの場

コロナ禍で、なかなか会えなかった友人を ANNEX に招く。距離もしっかり換気も万全。だってここは外！まるでグランピング状態。マスクを外して友人の笑顔をつまみにご一献。

3) 家族とのディナー

キャンプが苦手なファミリーも、ANNEX なら大丈夫。非日常は家族でいることの絆を深めてくれる。気恥ずかしいセリフだって、話せてしまうのだ。

4) レンタル・スペース

母屋に繋がるホームジム・スペースとコンボして、プライベート・ジムスペースとして外部にレンタルも出来る。ちょっとした副収入にもなる！

5) ヒトが集うスペース

カフェ・レストランとして、ワークショップや教室、SNS 発信基地としての活用も面白い。一人で楽しむのも一興だが、ヒトが繋がるコミュニケーションの場としても活用したい！



井上氏の愛車「アストンマーチン」。この車こそ ANNEX との出会いを導いてくれた



井上氏の愛娘も愛車と嗜れ着で ANNEX を体感！



外観一新築して間もない住宅（三井ホーム）の“住”と“インテリア”、(Rooming+)、そして(株)今井庭苑・佐々木さんの“エクステリア”が ANNEX によって融合された



夜はゆっくりと映画鑑賞も。ライティング設定やルーフの開閉も自在で、その時々や気分に合わせて雰囲気コントロールできる。上質なファニチャーとお酒が似合う、究極のラグジュアリー空間だ



てくれます。そんな存在であり、そんな空間なのです。

“ANNEX CREATION PRO JECT”を終えて

初めて ANNEX に出会ってから1年、たくさんのプロフェッショナルの力を結集して、今こうして完成しました。光・風・水・炎といった自然の体感に加えて、幸せのライフスタイルを運ぶファニチャーを初めとしたインテリア、そして、日常の自分を奮い立たせる珠玉の相棒「アストンマーチン DBX」や「MINI ジョーカー パワーウクス」が、ANNEX 空間で融合します。

ANNEX という究極のラグジュアリー空間に包まれて感じる至福の瞬間は、「ありがとう」という言葉では足りない感謝の念が溢れ出します。

ANNEX は佐々木さん。その経値と「変態」な情熱に感謝！

最後に、私の中の MVP を発表いたします。ANNEX を紹介し、その道のプロフェッショナルを統括してくれた(株)今井庭苑の佐々木社長です。

彼と僕との関係は、遠くルネサンス時代に遡れば、佐々木さんはミケランジェロ、私はそれを支えるメディチ家（パトロン）といった関係だったと思います。子供のような好奇心で、直感的な人間らしさを類まれな表現力で昇華させ、素晴らしい世界を描きあげてくださいました。

彼が積み上げて来たエクステリアの視点は、Rooming+ のインテリア、そして私のライフスタイルとぶつかり合い、そして共鳴しました。そこに共通するのは、情熱から生まれる美しいデザインであり、創意、絶対的な精度、極めて優れたクラフトマンシップです。改めて彼には感謝します「変態」（最大限の褒め言葉です！）でいてくれて、ありがとう！

ANNEX は確かに素晴らしい。しかし、どんな優れたものでも売れるわけはありません。自分の感性で受け止めて、今までの経値から醸成させ、何よりも情熱を持つことが大事だということを学びました。

未来へと続く橋と道— ANNEX に

よって熱狂的なファンを獲得することが、今エクステリアのプロの方々には、本当に求められていると感じます！

“庭からはじめる家づくり” の集大成に

『GARDEN ANNEX』を初めて見たのは4年前のエクステリア展示会「EXG（エクステリア×ガーデンエキシビジョン）」でした。

第一印象は「LIXILさん凄いものを出してきたなあ・・・」「どんな人が買うんだろう？」が正直な感想でした。

その後、モニター施工が数か所完工したと聞いて、LIXILさんが本気で商品化したんだと他人事の様思っていました。2021年6月に当時のLIXIL群馬営業所の北出所長から、LIXIL本社NODEAギャラリの見学に行きませんか？とお声を掛けて頂きました。そしてNODEAの世界観を体感し、こんなラグジュアリーな空間を表現できる物が身近に在ると知り、エクステリア・建築業界に革命が起こせるのではないかと思います。

NODEAギャラリーを見学した数日後に、以前お庭工事でお世話になりましたお客様（※今回の㈱折戸鶴・井上拓



株今井庭苑・佐々木英志社長

民社長です）よりご連絡頂き、「住宅リフォームを考えていてビルトインガレージを検討しているが、何か他にいい案ない？」とご相談を受け、これはもうANNEXを紹介するしかないと思います、カタログとギャラリーで撮った写真を持って伺い、ANNEXの魅力伝えました。

その後、お客様とNODEAギャラリーへ見学に行き、LIXIL駒ヶ根スタジオで大自然の中のANNEXを体感し、1日1組限定貸し切りレストラン豊洲サイタブリアで大都会のNODEAを体感して頂き今回のプロジェクトに至りました。

ANNEXの実現場は4件目で、個人宅では初施工だと聞き、これは今後のモデルケースになるかもしれないと思います。いざ始まった工事中にはロシア・ウクライナ情勢により、航空便を使う事が出来なくなり、急遽船便に変更となり、納期が大幅に遅れてしまうというトラブルもありました。その度にお客様と何度も意見交換をし、時にはお互いの主張を曲げることが出来ず、ぶつかり合うこともありましたが、お客様が私を信用して頂いてくれたからこそその主張の投げ合いだったと思います。お互いがより良い物と共通のゴールを目指すことが出来たからだと思います。

今回のプロジェクトは、私が造園業に入り16年（前職は漬物問屋の営業マン）、

エクステリアを本気で取り組み10年目の節目の現場であり、私が常々やりたいと思っていた“庭からはじめる家づくり”をやつと実現できた集大成であると思っています。

その大切な現場で、お客様のご厚意により、完成見学会（エクステリア業者向け）を開催させていただき、県内・隣県から多数の方にご来場いただき、皆様にも大変好評だったのがとても嬉しく思います。

完成見学会の翌日には、完成したばかりのANNEXでお客様・LIXILさん・問屋さん（群峰アクシア㈱様）、私と妻、フアンチャーをセレクトして頂いたR coming+さんとパーティーを開催させていただきました。素晴らしい時間を皆様と共に過ごすことが出来ました。パーティー終盤にお客様から今回のプロジェクトに対する思いを詩として朗読して頂いた時は、思わず涙がでてしまうほど感動致しました。

今まで「物売りではなく、事売り!!」を心掛けて全てのお客様と接してきたつもりでしたが、今回あらためて物ではなく、事・空間をしっかりとご提供出来るかと思えます。空間を創り、その空間を理解し使って頂く。デザイン・施工した者としてこんなに嬉しい事はありません。

事売りとは、ただ庭を創るのではなく、この庭で何が出来るか、何をしたいか

か、庭を創る事で家族のライフスタイルにより良い空間を提供・提案できるかだと思います。あらためて、庭創りは暮らす人の生活を変えることの出来る素晴らしい仕事だと感じました。

「庭は人を幸せにする」庭とは一番身近で、大切は場所であると思います。素敵な庭で居心地が良ければ、家族が庭で過ごす時間が増え、友人たちが集まり、コミュニティの場にもなる。素敵な庭は、日常空間であり非日常空間にも変わります。

例えば、普段の生活の中で家から庭を見れば日常空間であり、休日に庭でゆっくりと本を読んだり、ティータイムを楽しんだり、家族や友人達とバーベキューなどをすれば非日常空間に変わる。そのため「外に出たい」と思う庭を創らなければならない。そんな、人の幸せに携わる事の出来る素晴らしい仕事を出来ている事が嬉しく思います。

自分が創った庭で、庭への考え方・暮らし方が変わったと、お客様からの声を頂く度、幸せを少し分けて頂く事で、次のデザインの励みになっています。

今回のプロジェクトでは、お客様・LIXILさん・NODEAチームの皆様・群峰アクシア㈱さん、そして弊社協力業者の皆様方の多くの方々のご協力のもと完成致しました。

プロジェクトに携わり、素晴らしい空間を創造して頂いた皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。

今後も素晴らしい仲間と素敵な庭・空間創りに励んでいきます（佐々木英志）。